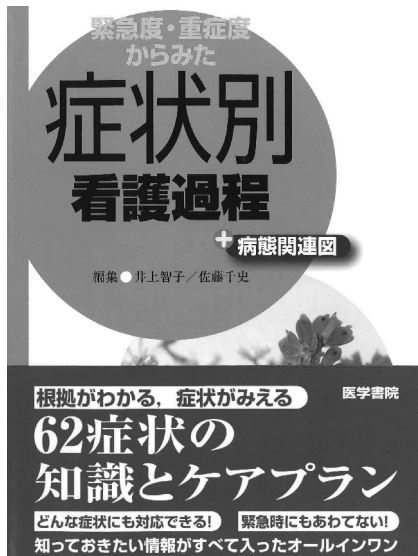


緊急度・重症度からみた 症状別看護過程＋病態関連図

井上智子、佐藤千史 編

定価5250円(本体5000円＋税5%)
医学書院 ☎03-3817-5657



看護学生にとって、臨地実習での学びはいつまでも鮮明に記憶に残るものです。しかし、実習中の学生は、同時に、「看護過程」の学習に追われ、眠れない日々を過ごしたことも覚えていきます。在宅看護の実習の場になる「訪問看護」に向けて、その緊張はさらに高まるものです。

現在、在院日数は短縮し、看護学生が短期間の実習中に看護過程を展開していくことが難しくなっています。予測した看護が待たずに展開できるよう臨床推理・判断力を学習することを求められる臨地実習では、そこでの看護過程の展開において「症状」と「看護」を効率的に結びつけることが、学習効果を高めるポイントとなっています。

看護過程は、看護実践に不可欠な思考過程と言われて久しいですが、看護学生にとっては、とくに臨地実習の場面では患者さんの状態に看護過程の学習内容が追いつかず、学生は緊張感と焦燥感で右往左往することが多々あります。

座学での看護過程の学習を終え、実習前になると学生が教員に「何を勉強すればいいの」「役に立つ参考書はどれか」「何をしっかり復習すればいいか」などと不安気な顔で多くの質問をしてくれます。学内での学習を臨地実習で活かせばよいと答えはするものの、臨地実習中の学生の学習量が増えることも目に見えて明らかであり、患者さんの症状と根拠のある看護援助を結びつける参考書を、実習に出る前の学生にまず示したいと思っています。本書はその期待に応える構成になっています。

また、看護学生が苦手としている看護過程の要素に「看護実践の評価」があります。本書ではこの苦意思識の高い看護評価のポイントが的確に示されています。学生は看護計画を、患者さんの反応を確かめながら、そして実習指導者や教員に指導を受けつつ実践することで精いっぱいになります。

「評価」の必要性和大切さをわかりなが

らも、臨床での学習場面では、看護計画を立案し、看護援助の実践をすることでも力尽きてしまい、学生のなかには看護援助の実践に重きを置き、十分な評価までに至らないまま臨地実習を終えてしまうことがあります。この看護評価が不足すると、次につながる看護援助にならずに実習を終えてしまいます。学生の臨地実習にご協力いただいた患者さん・利用者ご家族、そして訪問看護ステーションの皆様に対しても残念な学習結果になります。本書にあるような流れを把握し、学生に示すことは教える側の大きな責務です。そして、臨地実習の醍醐味を学生が実感する場面の1つとして、「知識として理解していることを、看護援助に結びつけて看護実践を展開していくこと」があります。本書の活用によって、臨地実習で看護が「切れ目のない実践」であることを体感する学習の機会へと導くことができるでしょう。

在宅では、このような切れ目のない看護がより重要であり、看護過程を学ぶ意義もまた深まります。臨地実習が長くつらい時間ではなく、臨地実習が学習の場であることを自覚し、学生自身が満足できる学習結果になることを力強くサポートする1冊です。